

視点

「ものづくり」を キーワードに地域と連携

日本工業大学 学長 柳澤 章



研究・教育機関である大学の今日における使命の一つとして、地域との連携があります。埼玉県宮代町に1967（昭和42）年に開学した日本工業大学は、今年で42年目を迎え、地域との多様な連携を図っています。

開学当初、最寄り駅の名称は杉戸駅でしたが、まもなく東武動物公園駅となり、休日ともなると親子連れでにぎわいます。そして、SLファンもまた、この駅をめざして各地から集まってきました。というのは、日本工業大学工業技術博物館に動態保存されている蒸気機関車があり、キャンパス内の軌道を定期運行しているからです。博物館は動態保存された旋盤などの工作機械や町工場の復元など約250点の機械が並び、身近なテーマで企画展を開催し、ものづくりの集大成といえるものになっています。

日本工業大学の地域との連携は、「ものづくり」をキーワードに、産官と、あるいは個人の方に向けて、あるいは子どもたちとともに繰り広げています。

産学連携起業教育センターでは、企業からの技術相談、試作品の製作・試験の実施、技術開発の受託を受け入れている他、学内に産学共同研究ラボを設け、企業の研究開発拠点として開放しています。

また、埼玉県産業技術総合センターが主催する産学官連携セミナーでは、本学の研究成果の例として、幅広い用途が期待されているダイヤモンドなどの超硬質膜の形成技術と応用例などを紹介し、県内の製造業の方々に参考にしていただいています。

埼玉県の提唱による県内在住のシニア（55

歳以上）の方々の社会参加と自己実現を目指す市民開放講座に本学も賛同して「シニアチャレンジ講座」を開講しています。日本建築の歴史、町並みの形成、環境とエネルギー、福祉に生かす情報科学、インターネットと倫理などをテーマとして取り上げ、好評を得ています。

工学、工業技術というと、一般の方にとっては、とっつきにくい、理数系は苦手と敬遠される向きもありますが、そうしたバリアを取り除けるような講義をしていくことが大学教員に求められる時代になっています。ですから、いわばアウェイでの他流試合をいかにスムーズに展開していくか。従来、大学教員にありがちともいえた、研究だけをしていればよいとか、背中で教えるというような時代とは異なる能力を磨かなければならなくなっています。そういう意味で、地域の様々な方との連携は、大学の能力向上へのチャレンジにおいて、とてもよい機会であるといえます。

今日、工業技術において欠かすことができないのが環境への視点です。去年は宮代町立笠原小学校でキッズ・エコサミット宮代2008が開催され、本学教員が子どもたちの発表に講評を行っています。今年1月の国連大学のキッズISOプログラム第7回国際認定証授与式では宮代町内の4小学校の6年生206名が初級編を認定され、特別賞を6名が受賞しています。今年度からは中学生が取り組む中級編について、本学が後援をしていきます。

地域との多様な連携は、アイデア豊かに今後ますます積極的に進めていきたいと考えています。